

愛してくれてありがとう

高松市立庵治中学校 3年 岡田 琴美 さん

父は仕事熱心な人でした。ですがそれよりも大切にしてくれたのが私達子供でした。父の仕事は漁師です。毎日朝は早いし、出荷の時期には、朝早くに漁に出て、また夜中に漁に出ることもあり、バツシャの時期には一日中漁に出ています。少ない人数で毎日漁に出ている父達には滅多に休みはありません。そんな大変な仕事をしている父ですが、いつも自分のことは言わずに私達ばかりを気にしてくれました。私は父に何度も「迎えに来て」と頼みました。眠れる時間が少ない父なのに嫌な顔一つせず「いいよ！何時？」と返してくれました。何度か仕事のある日に頼んだこともあります。その時は「明日仕事やけん行けんかもしれんけどなんとかするわ！」と、仕事の休みをずらしてくれ、次の日には「行けるよ！」と返してくれていました。それだけではなく、夏休みには毎日「お父さん急いで帰ってきたよ。お昼ごはん食べに行こう。」と急いで仕事から帰ってきてくれて、毎日お昼ごはんを食べに連れて行ってくれました。休日には「ここ行こう！」と返してくれ、お出かけもしました。父がいなくなった今、当たり前前に感じていた父の優しさと愛情がすごく特別なものだと気づきました。父は私をほめてくれました。料理をしていると「何作りよん？うわすごいなあ！」と毎回返してくれました。そして父に作った料理をあげるといつも食べ終わった写真を撮って「おいしかったよ。ごちそうさん。」とメールを返してくれました。行事があると、その後に必ず「どうだった。」と聞いてくれました。修学旅行や、最後の総体の「行きます。」「ただいま。」「楽しかったよ。」「新記録出たよ。」そんな私の言葉に対して、「よかったね。」と返してくれる父の姿

はなく、大きな魚を持って嬉しそうな父の写真に向かって話しかける毎日となりました。テスト期間には毎日夜食を作ってくれる父もいなくてやる気の出ないテスト期間が一段と辛く感じます。

毎日大変な仕事をがんばっている父に「お疲れ様」の一言も言えなかった自分、「ありがとう」「ごめんね」が言えなかった自分が情けなく悔しいです。亡くなった今、できることは数少なく、毎日の出来事を話したり、毎日たくさん食べていたようにお供えするご飯を大盛りをしたりすることくらいしかできません。もっとたくさん話しておけばよかった、もっといろんなことをしてあげたかったと毎日たくさん後悔をします。

十四年間で、父から教えてもらったことはたくさんあります。父とは十四年間しか一緒にいられなかったけど、父との毎日はかけがえのない大切な思い出です。これからは私が大切な人を愛し、自分を犠牲にしてでも助け父のようになり、父が望む私になれるように、毎日を大切に父の分まで笑顔で生きていきます。お父さん、ありがとう。ごめんね。